

法則 1

ヨコ画は「少しだけ」右上がりにする

まずは1つめの法則

ヨコ画は「少しだけ」右上がりにする

です。

ここでひとつお聞きしたいのですが、
あなたの書く文字は、

「ヨコ線がキツイ右上がり」

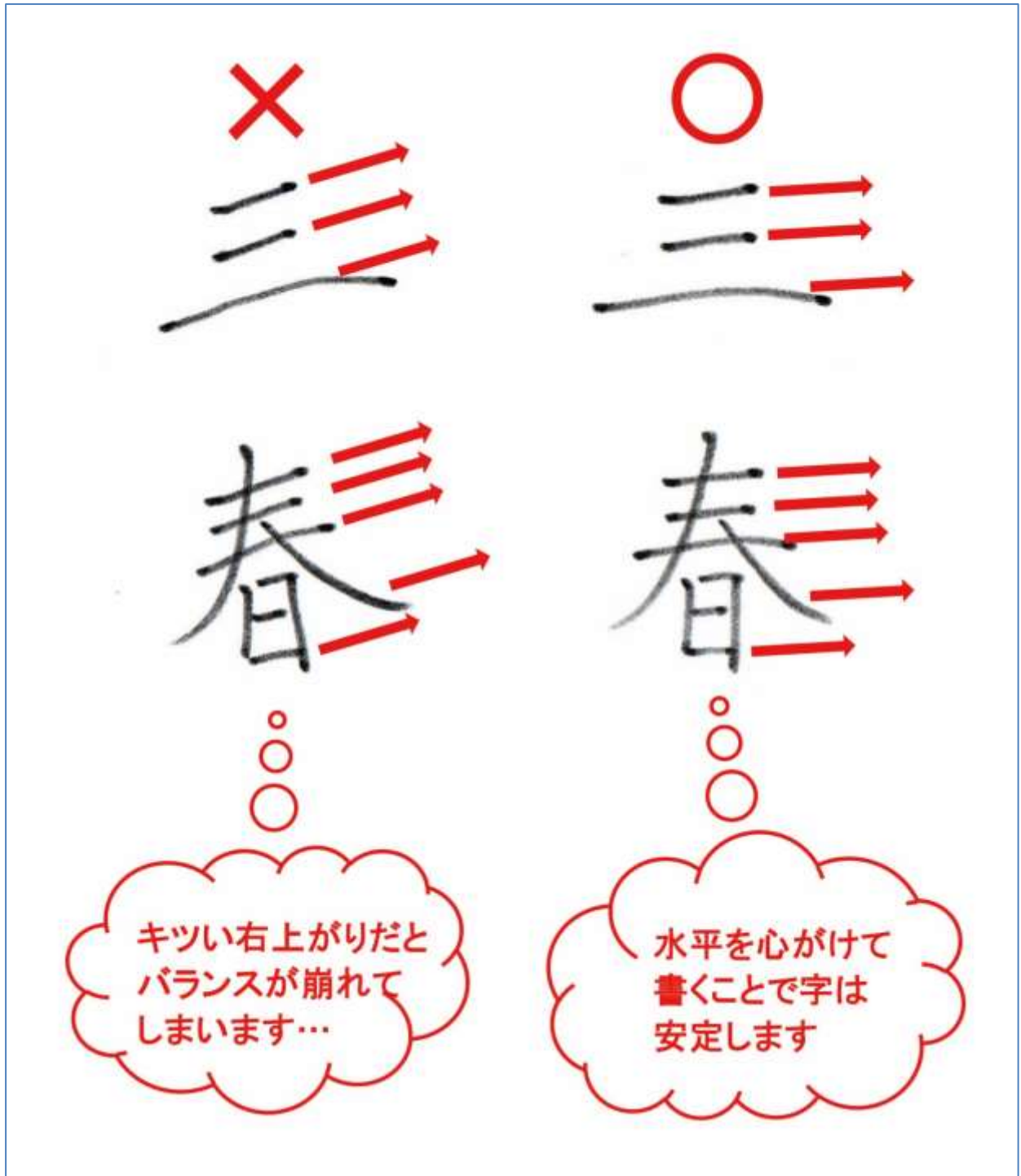
になっていないでしょうか？

キツイ右上がりだと、それだけで汚い文字になってしまします。

とくに文字はヨコ画からスタートする文字が多いの

で、

はじめにキツイ右上がりになってしまうと、（例外はありますが）バランスが崩れてしまいます。



私の経験上でも、最初の画をキツイ右上がりを書いてしまうとロクなことにならないです。

ですがこれは、人間の体のつくり的に右手右腕で書くと自然とそうなりがちなのです。

ためしに、何も考えずに右へ腕を振ってみて下さい。腕を振った軌道は、右ナナメ上を描いていないでしょうか？

何も意識しなければ、ヨコ画というのは右上がりになってしまうものなのです。

美しい文字に見えるためには、ヨコ画というのは水平（かそれに近い）になっていることが一つの条件です。

ですが真横で水平な線というのは、練習しないとなかなか引けません。

30センチぐらいの水平な線を、定規を使わないで引いてみると分かりますが、上へ行ったり下へ行ったりグニャグニャになったりと、なかなか立派な水平な線というのは引けません。

引けるという方は、相当に練習されたか天才だと思います。

ですが「右上がりになりがち」ということを知った上で、

「水平に、水平に」と心がけて書くだけでも変わります。

そしてそれを心がけた上で、

「少しだけ」右上がりを書く

ようにすると良いです。

この「少しだけ」がミソなのですが、

美文字に見えるベストなナナメ具合（角度）というのがあるのです。それは、

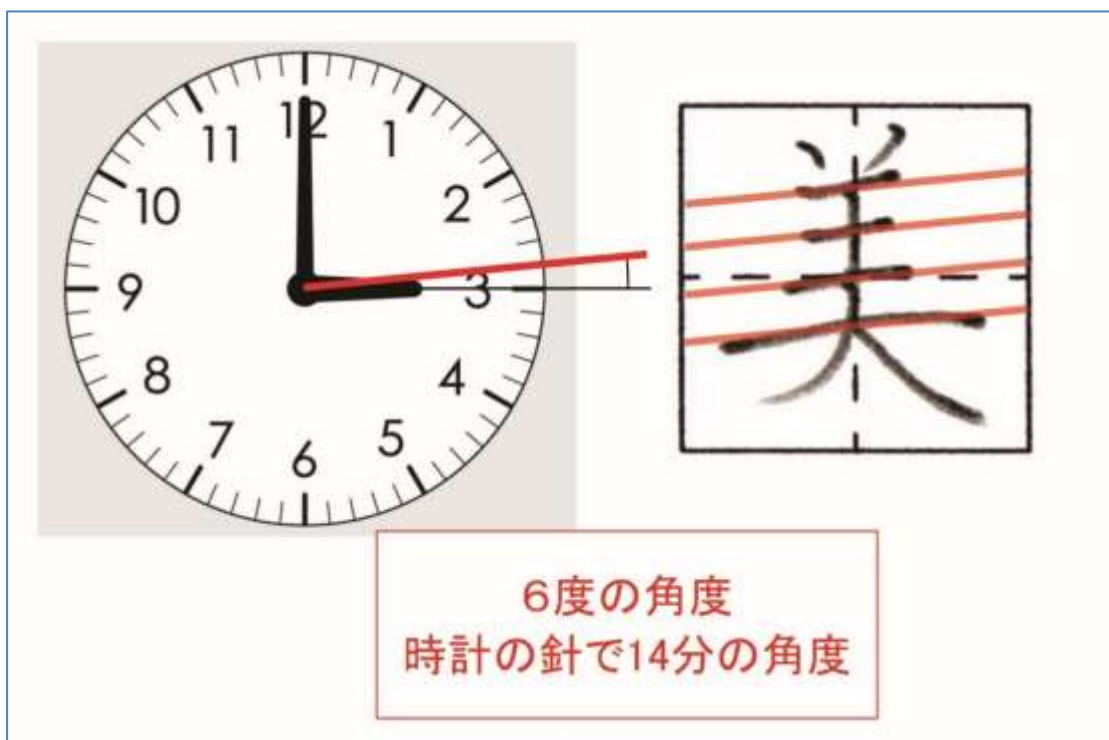
6度の角度

がベストです。

数字だけではイメージがわきにくいと思うので、例えると、

時計の長い針の「14分」の角度

になります。



なぜこれが美しく見えるのかまでは、科学的には分かりませんが、これは歴史が証明しています。

今から1000年以上も前の中国で書かれた
「漢字（楷書：かいしょ）の最高の文字だ！」
と言われる有名な書道のお手本があります。

そのお手本に書かれている漢字（楷書：かいしょ）の
ヨコ画の角度も「6度」になっているのです。

1000年以上たっても通用する美文字の法則を知っ
て実践しない手はありません。

ですが基準となる角度をお示ししましたが、あまりこ
れにこだわらなくても、先にお伝えした人間の体のつ
くり上、自然と右上がりになってきます。

なのであくまで「目安」として知っていただければと
思います。

大事なのは**キツくなり過ぎない自然な右上がり**です。
何事も過ぎて良いことなんてないように、自然な動き
で書くことが大事です。

また、ヨコ画が右上がりになりがちということは、
ヨコに書いていく場合の「ヨコ書き」でも右上がりにな
ってしまうということです。

あなたも、ヨコ線が引かれてない真っ白なノートに書
いていくと、どんどん右上がりに行が上がっていきな
いでしょうか？

これも「右上がりになりがち」を分かった上で意識し
て書くようにすることで、対応できます。

知っていて意識するとしないでは大きな差になるの
で、
まずは法則の1つめ、

ヨコ画は「少しだけ」右上がりにする。

右上がり具合は「6度」「時計の14分」
だけどあくまで目安。
水平を心がけて自然な右上がりに。

ということを、ぜひとも知って普段のペン書きの中に取り入れていただきたいと思います。